

《ワンポイント・レクチャー》

冠インターベンション(PCI)後再狭窄に対する新規遺伝子治療臨床研究の紹介

江頭健輔(循環器内科・講師)

狭心症や心筋梗塞の基本病態は動脈硬化による冠動脈の狭窄・血栓です。動脈硬化性狭窄を拡張する**冠インターベンション(PCI、バルーン拡張、ステント拡張)**が有用な治療として世界的に普及しています。しかし、いったん拡張した冠動脈が再び狭くなる「**再狭窄**」が高率に発生することが医学的問題となっています。再狭窄により再発する心筋虚血により狭心症や心筋梗塞症が起こる可能性が高く、しばしば再PCI施行あるいは冠動脈バイパス手術が必要になる場合が少なくありません。したがって、再狭窄を抑制する新しい治療が期待されてきたわけですが未だ確立した治療はありません。

欧米では、血管内皮増殖因子(VEGF)の遺伝子治療、血管内放射線照射、抗癌剤含有ステントなどが試みられ有効性が示されつつあります。私たちは、独自に炎症制御による新規遺伝子治療法を開発し、臨床試験を計画しています。

1. 新規遺伝子治療の開発:私たちは単球/マクロファージの遊走に必須の役割を持つケモカインであるmonocyte chemoattractant protein-1(MCP-1)の**N末端欠失体7ND**がMCP-1受容体の強力な拮抗因子として作用すること、7NDプラスミド遺伝子導入(骨格筋筋注)によって遠隔臓器の単球浸潤を阻止できることを明らかにしました。

2. 有用性と安全性:この**抗MCP-1遺伝子治療法**によって高コレステロール血症マウスの動脈硬化の進行が抑制され、かつプラークの安定化がもたらされました。さらに、動物モデル(サルなど)における再狭窄反応を抑制できました。サルを用いて安全性の検討も完了しました。

3. 臨床研究:PCI後再狭窄の**新しい遺伝子治療法**を目指して遺伝子治療臨床研究を計画中です(平成13年12月、厚生労働省に申請中で平成14年度に開始予定)。

同時に人工核酸(NF-kBデコイ)導入による再狭窄抑制の臨床研究も計画していますので、狭心症患者を紹介していただきますようお願い申し上げます。

九大新病院のご紹介(下)

毛利正博(冠動脈疾患治療部・講師)

4月から新病院で診療を始めるわたしたちの**冠動脈疾患治療部**は、現在の4床から**10床に増床**され増加する循環器救急疾患患者に対応する予定です。また新病院には、待望の**心臓カテーテル検査室**が増設されることになり、これまで以上に急性心筋梗塞や不安定狭心症などの一刻を争う虚血性心疾患の治療をスムーズに行えるようになることが期待されます。今後とも多くの患者さんのご紹介をお願い申し上げます。

これらの医療サービスの充実と平行して、われわれは循環器内科と協力し高度先駆的医療を確立すべく基礎的検討をすすめています。たとえば、**PTCA後再狭窄や動脈硬化に対する遺伝子治療、重症虚血性心臓血管病に対する細胞移植療法**など、最先端の分子細胞生物学的技術をもちいた治療の一部はすでに学内倫理委員会の承認手続きも終えて、平成14年度には臨床治験が九大病院で始まる予定です。

最後に重症の心不全に対応するためには**心臓移植**が実施できるようならなければなりません。ご承知のように現時点において、大阪以西に心臓移植を実施出来る施設はありません。われわれは現在心臓外科、循環器内科と協力して準備を進めています。ごく近い将来九大病院で心臓移植をおこなうことが出来るようになることが期待されます。

前稿で述べた新九大病院のコンセプトである**Critical Care Center(CCC)構想**を実現するため、冠動脈疾患治療部のみならず、集中治療室や手術室の数も増えて心臓外科が施行する手術数も増加することが予想されます。21世紀の西日本における循環器疾患の中核センターとして責任が果たせるよう今後とも努力していきたいと考えていますので、今後とも多くの先生方のご協力をお願い申し上げます。



新CCU。平成14年4月からの診療に備えて、現在治療機器、モニター機器などを準備中。

《第20期循環器内科学・生涯講座からのお知らせ》

平成13年12月20日に今期の第9回目が行なわれ、今期の循環器内科学生涯講座もあと3回を残すところとなりました(今後の予定は後述しております)。先生方の日常診療活動に直結する心エコーの適応や高血圧治療や、21世紀型医療の代表である遺伝子治療・細胞移植療法についての講義を予定しておりますのでご期待ください。

また、そろそろ次期の計画立案を始める時期となり、次回より例年のように先生方にアンケートをさせていただき予定にしております。今期の各講義の状況から察するに、循環器領域のトピックのみならず、その周辺領域までできるだけカバーできるようにとは考えておりますが、一番重要であります先生方のご要望をできるだけ組み入れることができるようにしたいと考えております。予定されておりますアンケート以外にも先生方のご意見を事務局までお送りいただければ幸いです。

これまでもご案内いたしましたように今期も心エコー実習の受付を現在行なっております。心エコー実習は祝日および年末年始を除く来年3月末日までの毎週火曜日ないしは木曜日の10:00-12:00を予定しております(受講料2,000円)。申込みは希望される日の2週間前までにお送りいたしました申込み用紙をお使いの上、FAXでお送りください。申込み用紙をお持ちでない方は、事務局の方までご連絡ください。

さらに、本講座の申し込みをされていない先生方でも興味のある回のみのお受講希望を受け付けておりますので事務局の方までご連絡ください(1回2,500円)。

生涯講座担当 小池城司

今後の予定

第10回・平成14年1月24日(木) 市来俊弘助手
超音波検査で循環器疾患がどこまでわかるかー症状からみた超音波検査の適応

第11回・平成14年2月28日(木) 廣岡良隆助手
合併症をもつ高血圧の治療ーガイドラインを中心に

第12回・平成14年3月14日(木) 江頭健輔講師
21世紀型医療としての遺伝子治療・細胞移植ー難治性心血管病の克服を目指して

- ・ 場所: 九州大学医学部附属病院4階・臨床大講堂
- ・ 時間: 19:00-19:30 ワンポイントレクチャー
- ・ 19:30-20:30 メインテーマ

- ・ 問い合わせ先:
 - ・ 〒812-8582 福岡市東区馬出3-1-1
 - ・ 九州大学医学部循環器内科
 - ・ 小池城司 (koike@cardiol.med.kyushu-u.ac.jp)
 - ・ 本松加奈子 (motomatu@cardiol.med.kyushu-u.ac.jp)
 - ・ 電話 (092)642-5360、FAX (092)642-5374

【病棟だより】

皆様、新年おめでとうございます。さて、今年1月より、廣岡が病棟医長を担当することになりました。三回目となりますので今までの経験をもとに、先生方から日頃伺っている御意見を参考にしながら頑張っていきたいと思っております。御存知の通り、新聞などで話題になっております政府による一般医療改革のみならず、大学を取り巻く医療現場も大学病院の法人化、スーパーローテーションシステムの本格的な導入、新病院の4月からの開院へ向けて大きく変化しようとしています。そのために生じる様々な問題を解決しながら、最も重要なことは患者さん方へより良い医療を提供できるよう努力していかなければならないと考えています。また、大学の使命として新しい治療法の開発・提供も重要なことでありそのような展開が見られるような研究が進んでいます。

最近、EBM(Evidence Based Medicine)という言葉が話題になっており、その重要性は理解できますが、現実の医療は患者さんひとりひとりの病態のみならず背景その他によって臨機応変に考えねばならない部分が多いのが実態だと存じます。最近、日本循環器学会、日本高血圧学会などから我が国の実態に合わせた各種ガイドラインが作成されています。ただし、我が国からのevidenceは少なくいろいろな問題点が指摘されているのも事実です。ぜひ先生方の御経験による御意見を賜り、かつ御紹介いただきました患者さんにつきましては我々が気がつかないことが多々あると思いますので日頃の診療におきまして感じておられることがございましたら御遠慮なく申し付け下さりますようお願い申し上げます。

以上の目的を達成するためには、先生方の御協力、feedbackなくしては考えられません。何卒、よろしく御指導、御鞭撻の程、お願い申し上げます。

病棟医長 廣岡良隆

私共への注文、期待など何でも、e-mail、手紙、ファックスで遠慮なくお寄せ下さい。匿名でも結構です。

竹下 彰 (教授)



Dr. Mayu Inoue

新患受付:

月曜日から木曜日の毎日

午前8:30から午前11:00まで。

予約不要。

不明の点は外来までお問い合わせ下さい。

電話: 092-642-5371 (外来直通)

急患受付:

24時間対応いたします。

病棟医長または当直医までご相談ください。

電話: 092-642-5368 (病棟直通)

FAX: 092-642-5373 (病棟直通)

《おわりに》

明けましておめでとうございます。本年もよろしくお願い申し上げます。ご意見、ご要望、ご質問をお待ちしています。

広報誌担当 久保田 徹
beat@cardiol.med.kyushu-u.ac.jp